

本社研修旅行を終えて

今回の研修旅行では普段の学校生活では知り得ない赤十字のことについてたくさん学ぶことができました。

情報プラザの見学では、赤十字がどのようにして設立されたのか、当時の物品や写真など様々な展示品と照らし合わせて詳しく学ぶことができました。”中立の立場でいたい”と訴えた文書や外国から”消毒がなくなった時に救援物資として使って欲しい”と送られてきたお酒など、当時の物がそのまま展示されていたので、その時のことをとてもリアルに感じることができました。他にも備蓄倉庫を見学した時、外国の赤十字社は、被災者に就寝用のマットのみ提供しているのに対し、日本では就寝用のマットに加え、耳栓やアイマスクを提供していることを初めて知りました。避難所での環境を考え、「できるだけストレスを軽減できるよう努めています。」と聞いた時、細やかな気配りに感動し、同時に自分が赤十字社の一員であることに誇りと責任を感じました。

本社学生研修においては、国際救援活動についての講演を聴講し、人々の苦痛を軽減し予防するための実際の活動を知り、大変刺激を受けました。また、他校の学生と意見交換をすることで、赤十字の仲間だという繋がりを意識することができ、自分の視野が広がりました。地域によって違った考え方や文化が存在することを認め合い、相手を知る前にまず自分を知ることの大切さも学ぶことができました。研修を通して、私は、『今、自分にできること』として、背伸びはせずに自分ができる範囲で困っている人を助ける、そのために声をかけに行く勇気と行動力を身につけていきたいと思います。赤十字のことだけではなく、今までの自分を見つめなおす大変貴重な機会となりました。

